



Title	「売る」と「買う」：東アフリカにおける物の売買に関する意味論的考察
Author(s)	梶, 茂樹
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2026, 37, p. 200-208
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104455
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「売る」と「買う」

— 東アフリカにおける物の売買に関する意味論的考察 —

“To buy” and “to sell”: Semantic consideration about trade in East Africa

梶 茂樹*

Kaji, Shigeki

0. はじめに — Swahili 語の kuuza

Swahili 語の kuuza という動詞は、Swahili 語圏の東部地域では「売る」を意味するが、西部地域では「買う」を意味する。このことは、ケニアやタンザニアの Swahili 語圏東部地域と、コンゴ東部の Swahili 語圏西部地域を行き来する人間にとっては自明のことであるが、東部地域の Swahili 語しか知らない人にとっては意外かもしれない。出版されている様々な辞書は、東部地域の Swahili 語しか扱っていないため kuuza の訳を見ても「売る」としか書いていない。

kuuza に「買う」という意味があることを書いた文献は、筆者は、寡聞にして筆者自身のものしか知らない。Kaji (1985)、Kaji (1986)、Kaji (1992) である。Kaji (1985) には、「ザイール・スワヒリ語では kununua と kuuza は同じ意味である。そして「売る」は kuuzisha、つまり kuuza の使役形「買わせる」で表現される」¹(Kaji 1985: 115) と書いてある。また Kaji (1986) にはコンゴの Tembo 語の kúúlá「買う」の訳として Swahili 語で kuuza と kununua が書かれている (Kaji 1986: 464)。同様に、Kaji (1992) にも、Tembo 語の北に話される Hunde 語の iula「買う」の訳として Swahili 語で kuuza と kununua が書かれている (Kaji 1992: 130)。

こう書くと、コンゴ東部で kununua と kuuza は同じように使われるような印象を持つかもしれないが、日常生活で使われるのは、ほぼ kuuza のみである²。kununua は聖書に出てくるので知っている人は多いが、日常生活で聞くことはまずない。筆者は 1976 年から 1990 年まで毎年コンゴ東部で部族語（地方語）と Swahili 語の調査を行っていたが、kununua を日常生活で聞いたのは 1 回のみである。意外だったのでよく覚えている。なお、筆者が知っているコンゴ Swahili 語は北キブ州のゴマから南キブ州のウビラにかけての地域のものである。従って、本稿でコンゴ Swahili 語と言う場合もこの地域の Swahili 語を指す。コンゴ東部は広いので、

* 京都大学名誉教授 (Professor emeritus, Kyoto University)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー (Fellow, the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies)

¹ 原文フランス語。

² Tembo 語の kúúlá「買う」と Hunde 語の iula「買う」の Swahili 語訳として kuuza が kununua より先に書かれていることに注意。

地域によってはまた違った事情があるかもしれないが、筆者は知らないので本稿では考慮しない。

では、最初に戻って、なぜ *kuuza* が Swahili 語圏東部では「売る」なのに、Swahili 語圏西部で「買う」を意味するのか。本稿は、東アフリカからコンゴ東部にかけての様々な言語の「売る」と「買う」を表す単語を比較、検討すると同時に、物の売買の意味論的考察を加え、この問題の解決に迫る。

ただ、様々な言語と言っても、筆者が調査できた言語、そして筆者の知識も限られているので、本稿はあくまでも試論であることを断っておく。またここに掲げるデータは、もちろん、筆者の持っているすべてのデータではない。議論を簡単にするため、タンザニアやコンゴなどの言語もごく一部のデータしか提示していない³。

1. Swahili 語の分布域

本稿ではデータとして主としてウガンダの言語を取り扱うが、その前に、Swahili 語という共通語の現在の分布域について述べておく⁴。Swahili 語は、東アフリカ沿岸地帯からコンゴ東部にかけての広大な地域で話されている。ただし通用度は一様ではなく、タンザニアではほぼ全域で通じるが、ケニアでは北部は通用度が低い。ウガンダでは北部では話す人は多いが、南部地域では、軍隊や警察関係者などを除けば、進んで話す人は稀である（ただし知っている人は多い）。ルワンダとブルンディは、首都のキガリやブジュンブラ、またコンゴに接しているギセニやチャンググや大きな町以外では Swahili 語はほとんど通用しない。それに対してコンゴ東部では幾つかの例外はあるが、Swahili 語は非常に広範に用いられている。

さて、この Swahili 語であるが、話されている地域が広いので、当然方言差はある。本稿で取り上げるのは *kuuza* という動詞であるが、「始めに」で述べたように、この語は Swahili 語圏の東部では「売る」を意味するが、西部のコンゴ東部では「買う」を意味するのである。本稿ではその理由を、特にウガンダの言語を見ることによって紐解いていく。

2. 「売る」と「買う」の意味論

本節で、「売る」と「買う」は一見まったく逆のことを言っているように見えるが、実は 1 つのことであることを意味論的観点から述べる。

³ 以下に用いるデータは、コンゴ Swahili 語については主として Kaji (1985)、Haya 語については Kaji (2000)、Nyoro 語については Kaji (2015)、Tooro 語については Kaji (2007)、Ankore 語については Kaji (2004)、Kiga 語については Kaji (2023)、Tembo 語については (1986) を用いる。Ganda 語と Tagwenda 語については筆者のフィールドノートによる。

⁴ 以下は、筆者がこの地域を旅行して見聞きした個人的経験に基づいている。

表 1: 逆意の関係にある意味を 1 語で表す場合

	「習う」	「教える」
ドイツ語	lernen	lernen
フランス語	apprendre	apprendre
	「借りする」	「貸しする」
英語	rent	rent
フランス語	louer	louer

2 人の人間⁵がいて、一方が物を売って他方が買う場合を想定してみよう。これは両当事者から見れば、売ると買うだから逆である。つまり「売る」と「買う」は反対語であるのだが、他方、客観的に見れば、売買という表現もあるように、2 人で 1 つのことをしているともとれる。つまり 2 人で 1 つの売買という行為を行っていると考えられることも可能なのである。このような反対関係にある意味関係を言語学で「逆意」という。「これは同一の事項を 2 つの相異なる観点から裏返しにながめた関係を指す」(柴谷・影山・田守 1982: 58) ものである。

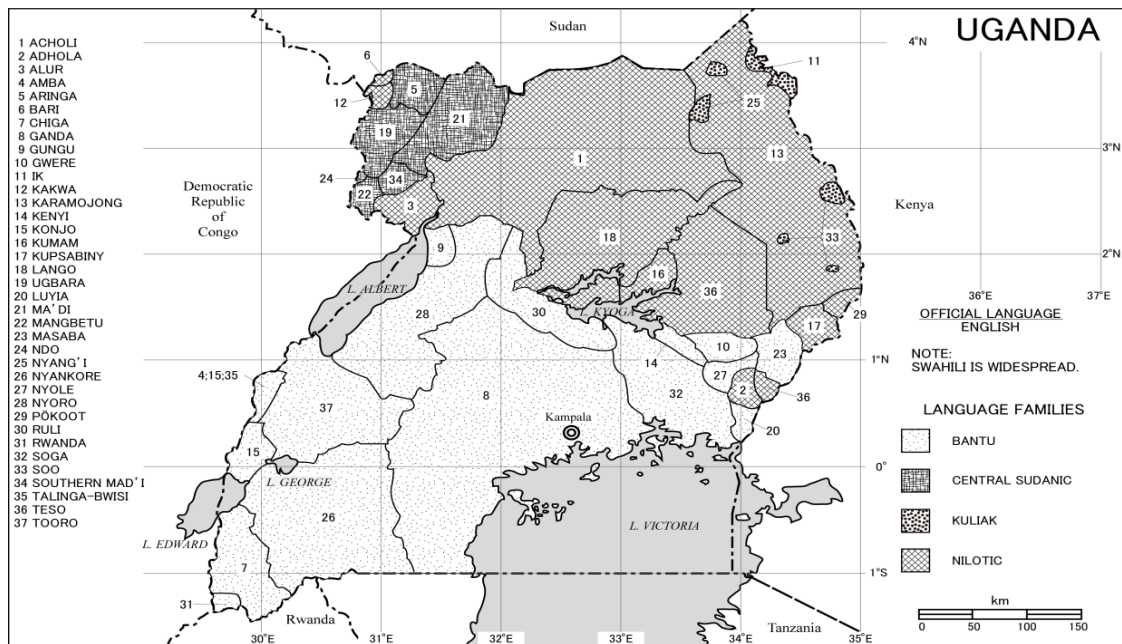
このような意味関係にある語は 1 点、面白いことが見いだされる (表 1 参照)。例えば、英語では「習う」は *learn* で、「教える」は *teach* で異なるが、英語の *learn* と元々同じ単語であるドイツ語の *lernen* は 1 語で「習う」と「教える」の両方の意味を表す。フランス語の *apprendre* も同様に「習う」と「教える」の両方を意味する。また、「借りする」と「貸しする」も、英語ではどちらも *rent* であり、同様にフランス語でも、どちらも *louer* である。

以上のように、2 人の相異なる行為が 1 つの語で表しうるのは、先にも述べたように、客観的に見れば 1 つの行為を行っていると見ることが可能であるからである。以上を踏まえて、「売る」と「買う」を改めて見ると、この 2 語も「習う」と「教える」などと同じく、逆意の意味関係にあることがわかる。つまり、この 2 つは 1 語で表しうるのである。

3. 東アフリカにおける物の売買と言語

ここからは筆者の推論である。19 世紀、そして 20 世紀に東アフリカの沿岸地帯から多くの物資が内陸へと運ばれた。それはキャラバンルートによってコンゴ東部へと続いた。これは交易であるから売る側と買う側がいる。そしてこの交易は Swahili 語の大陸内部への浸透とも関

⁵ 2 つのグループでもいいのだが、ここでは話を簡単にするため、2 人の人間としておく。



地図：ウガンダの言語分布図 (Source: Grimes (2000))

係していた。アフリカ大陸には多数の言語が話されており、コミュニケーションはそう簡単ではない。一部は身振り手振りで用は足せてもすべてはそうはいかず、ことばによるコミュニケーションが必要になってくる。その際、共通語として用いられたのは結局のところ Swahili 語であろう。東部の人間はアラブ人ならアラビア語、そして現地人なら自分の母語を話すわけである。また内陸部の人間も当然自分の言語を話す。しかし、それではお互いなかなかコミュニケーションはうまくいかず、すでに（不完全であったとしても）知っていた Swahili 語を用いることもあったと思われる。当時 Swahili 語は必ずしも地域共通語として確立していたわけではなく、折り合いをつける過程で Swahili 語が醸成されていくということもあったであろう。

そして物の売買であるが、東側の人間は売る側である。その際「売る」を意味するため用いた単語は *kuuza* であろう。西側の人たちは物を買う側である。そして西側の人たちも、その売買を同じ 1 つの行為をしているとして、同じ *kuuza* で受け止めたのではないかと。そして、この *kuuza* は買う側から見れば「買う」なのである。つまり、当時、売る側は *kuuza* を「売る」として、そして買う側は *kuuza* を「買う」として理解していたのではないかと。これには、お互いの（特に西側地域の人の）Swahili 語能力の問題もあったかもしれない。

4. 「売る」と「買う」の境目

では、この「売る」と「買う」の、ある意味、混同が生じたのはどの地域であろうか。筆者は、これをウガンダ西部と見ている。

表 2 は、関係する地域の幾つかの言語で「売る」と「買う」がどう表現されているかを示す

ものである。1) ケニア、タンザニアと 2) ウガンダ、そして 3) コンゴ東部の 3 地域に分けてある。

以下、幾つかの言語名が出てくるが、ウガンダにおける言語の分布に関しては、地図を参照されたい。ただし、この地図の中には以下で議論になる Tagwenda 語は出てこない。Tagwenda 語は地図の 37 の Tooro 語と 26 の Ankore 語との中間地帯に話されており、Tooro 語の方言とも Ankore 語の方言とも言われている⁶。なお本稿で Ankore 語と言っている言語は、地図では Nyankore となっている。

「売る」と「買う」で、まず興味深いのは Ganda 語である。Ganda 語はウガンダの国の中央部に話され、Ganda 語を話す Ganda 族は昔から王国を形成し、この地域で強い勢力を誇っていた。この Ganda 語では「買う」は okugula であるが、「売る」は okutunda と okuguza の

表 2: 各言語の「売る」と「買う」(Swahili E(ast) は Swahili 語圏東部地域で話される Swahili 語、Swahili W(est) は Swahili 語圏西部のコンゴ東部地域で話される Swahili 語を意味する)

		「買う」	「売る」
ケニア、タンザニア	Swahili E	kununua	kuuza
	Haya	okugula	okuguza
ウガンダ	Ganda	okugula	okutunda, okuguza
	Nyoro	okugûra	okutûnda, okugûza
	Tooro	okugúra	okugúza
	Tagwenda	okugura, okutunda	okuguza
	Ankore	okugura, okutunda	okuguza
	Kiga	okugura	okuguza
コンゴ東部	Swahili W	kuuza	kuuzisha
	Tembo	ékúúlá	ékúúsá

⁶ Tagwenda 族は現在は Kitagwenda 県 (district) を形成しているが、彼らの領域は、かつては Tooro 王国の版図の一部であった。Kitagwenda 県は 2019 年に、かつての Tooro 王国の一部を構成していた Kyenjojo 県から切り離されてできたものである。

2つある。Ganda 語の北西に話される Nyoro 語も、「買う」は okugûra で、「売る」は okutûnda と okugûza の 2 つであるが、彼らは、「売る」は okugûza より okutûnda をよく用い、okugûza は Nyoro 語でも理解はするが、Tooro 語でよく用いられると言う⁷ (Kaji 2015: 402)。Ganda 語でも「売る」は okutunda がよく用いられ、多くのウガンダ人は okutunda が他の言語で用いられていても、元々は Ganda 語であると思っている。筆者は Nyoro 語の okutûnda が Ganda 語からの借用語かどうかは知らない。

Nyoro 語の南に話される Tooro 語では「買う」は okugûra で「売る」は okugûza である。okutûnda⁸ は用いない。これがこの地域で多いパターンである。問題は Tooro 語の南の Tagwenda 語と、さらにその南の Ankore 語があるが、これはあとにして、この 2 つの言語のさらに南の Kiga 語を見ると、Kiga 語でも「買う」は okugura で「売る」は okuguza のみである。さらに西のコンゴ地域に行くと、やはり Tembo 語に見られるように「買う」は ékúúlá⁹ で「売る」は ékúúsá である。これらの言語での「買う」と「売る」は発音が少しずつ異なるが、元々同じ単語である（言語学でいう cognate 「同語源語」）。

さて、問題の Tagwenda 語とその南の Ankore 語であるが、面白いことに「売る」はどちらも okuguza であるが、「買う」は okugura と okutunda の 2 つある。okugura は周辺の多くの言語にあるものと同じであるが、okutunda を「買う」の意味で用いるのは、筆者の知る限りこの 2 言語のみである。

以上から、筆者は物の売買における東側と西側の境目は、Ganda/Nyoro と Ankore/Tagwenda の間ではなかったかと思っている。Ganda 族と Nyoro 族は、物の売買において okutunda (あるいは okutûnda) を「売る」として使い、Ankore 族と Tagwenda 族¹⁰ は、それを「買う」として理解していた人たちである。Ganda 族と Nyoro 族はイギリスによるこの地域の植民地化以前、それぞれ王国を形成し、この地域で最も勢力のあった人たちである。彼らは、東から来る物資を中継基地として受け入れ、それを西側の人たちに売っていたのではないか。そしてこのことが共通語としての Swahili 語に反映されたのではないだろうか。Swahili 語が大陸の西に伝播していく過程において現地語の要素を取り入れることが伝播の大きな要因の 1 つであったと考えられている (梶 2002)。つまり、部族語にあった区別を Swahili 語に取り入れたと考えられるのである。その方が現地住民の Swahili 語習得の負担が減るし、また Swahili 語を用いて

⁷ Nyoro 族の人間がこういう言い方をするのは、Nyoro 語と Tooro 語が通常 Nyoro-Tooro として 1 つの言語のように扱われるからである。

⁸ okutûnda という表現は、もし Tooro 語が用いるとしたらということで筆者が作り出したものである。

⁹ 「始めに」で Tembo 語の「買う」を kúúlá と書いたが、ékúúlá も可能である。最初の é は一種の冠詞で統語環境によって現れたり現れなかったりする。

¹⁰ Tagwenda 族を 1 つの民族集団としていいかどうかの問題はここでは置いておく。

も周辺民族とのコミュニケーションも取りやすくなるからである。逆に、取引に Swahili 語が用いられ、Swahili 語での意味の区別が Ganda 語/Nyoro 語と Ankore 語/Tagwenda 語にそれぞれ反映されたという可能性も考えられるが、これは実際にはなかったであろう。当時、この地域では Swahili 語はまだ十分に普及していなかったからである。

5. 「売る」は「買う」の使役形

ここで言語表現としての「売る」と「買う」の関係を見てみよう。この地域のバンツ一系の多くの言語で「売る」は「買わせる」というふうに、「買う」の使役形となっている。例えば、Kiga 語では、「買う」は *okugura* で「売る」は *okuguza* であるが、この *okuguza* は *okugura* の使役形である。(1a) と (1b) のような関係である。(1b) の *okuguza* 「売る」には (1a) の *okugura* 「買う」に *-i-* という使役の形態素が加わっている。

- | | | |
|-----|--------------------------------|---------------------------------|
| (1) | a. <i>okugura</i> | b. <i>okuguza</i> |
| | <i>o-ku-gur-a</i> | <i>o-ku-gur-i-a</i> |
| | Aug-NPr15-buy-FV ¹¹ | Aug-NPr15-buy-Caus-FV |
| | “to buy” | “to sell” (← “to cause to buy”) |

(1a) と (1b) がそれぞれ、どのような派生のプロセスを経て *okugura* と *okuguza* になるのかを示したのが (2a) と (2b) である。(2a) と (2b) では *r* を基底形で *d* で表記している。*r* でもいいのだが、派生が分かりやすいようにここでは *d* としておく。(2) の派生を見ると、(2a) では *d* が母音間で *r* になるだけであるが (2b) では *d* が使役の *-i-* により摩擦音化を起し、最終的に *z* の音を生み出す。

- | | | | |
|-----|--------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|
| (2) | a. / <i>o-ku-gud-a</i> / | b. / <i>o-ku-gud-i-a</i> / | : 基底形 |
| | <i>okugura</i> | | : 母音間での <i>d</i> の弱化 (<i>r</i> 音化) |
| | | <i>okugudya</i> | : 母音 <i>i</i> の半母音化 |
| | | <i>okuguza</i> | : <i>dy</i> の摩擦音化 |
| | <i>okugura</i> | <i>okuguza</i> | : 最終形 |
| | “to buy” | “to sell” (← “to cause to buy”) | |

¹¹ 略語は以下の通り。Caus: causative 「使役」、FV: final vowel 「語尾母音」、NPr: nominal prefix 「名詞接頭辞」。なお NPr15 の 15 は名詞のクラス番号である。

以上、言語表現から見ると、「売る」は相手に「買わせる」であるから、売る方が買う方に少し高飛車に出ているような感じとなっている。このことが、okutunda、そして kuuza の意味変化に関係しているかどうかはわからない。

Swahili 語の kuuza「売る」の派生も (2b) と同じである。ただ (2a) の「買う」に当たる語は使われず、kununua に置き換わっている。コンゴ Swahili 語の kuuza「買う」も、形としては、この現在は Swahili 語では使われない *kugula「買う」の使役形である。そして「売る」を「買う」の使役形として表現することも、現在のコンゴ Swahili 語でも同様である。(3) のようである。(3) は (1) と出発点の「買う」の形が違うだけで、派生関係は並行している。

- | | | |
|-----|--------------|---------------------------------|
| (3) | a. ku-uz-a | b. ku-uz-ish-a |
| | NPr15-buy-FV | NPr15-buy-Caus-FV |
| | “to buy” | “to sell” (← “to cause to buy”) |

6. 終わりに

本稿は、Swahili 語の kuuza という動詞が、Swahili 語圏の東部地域では「売る」を意味するのに対して西部では「買う」を意味するのはなぜかという疑問から出発し、ウガンダの Ganda 語と Nyoro 語で、動詞 okutunda (あるいは okutūnda) が「売る」を意味するのに対して、Ankore 語と Tagwenda 語では、この同じ単語が「買う」を意味するということから、東アフリカにおける物の売買に関して意味論的考察を加えたものである。当初 Swahili 語はまだ十分に発達しておらず、売買は身振り、手ぶりや部族語を通して行われていた。当時、海岸地帯から入ってきた物資の中継基地としての役割を果たしていたのは Ganda 族と Nyoro 族で、それをさらに西の Ankore 族と Tagwenda 族に売っていた。その後、段々と Swahili 語が共通語として用いられるようになり、彼ら自身の言語にある、この逆意の意味関係にある「売る」と「買う」を同一単語で表すということが、Swahili 語の kuuza にも導入されたのではないかと推定した。

もちろん、これは当時の物の売買のあり様を実際に見ての考察ではないので、すべてが、ここに書かれた筋書き通りに行われたかどうかはわからない。過去のことなので実証することはできないが、書かれた文献を精査すれば、交易に関する実際の証拠が得られるかもしれない。ただし、これは筆者の能力、そしてとりわけ本稿の範囲を超えることである。

筆者としては様々な現地語を調査するだけである。それによって、現地の人たちが物事をどのように捉えているかの一端を見ることが出来る。そして、そういう裏付けがなければ Swahili 語の問題も解けないことが多い。

参考文献

- Grimes, Barbara F. 2000. *Ethnologue: Languages of the World* (Fourteenth edition). SIL International, Dallas.
- Kaji, Shigeki. 1985. *Deux Mille Phrases de Swahili tel qu'il se Parle au Zaïre*. Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Kaji, Shigeki. 1986. *Lexique Tembo I: Tembo-Swahili du Zaïre-Japonais-Français*. Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Kaji, Shigeki. 1992. *Vocabulaire Hunde*. Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Kaji, Shigeki. 2000. *A Haya Vocabulary*. Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- 梶 茂樹. 2002. 「スワヒリ語はなぜザイールにまで広まったのか—その構造から探る—」, 『現代アフリカの社会変動—ことばと文化の動態観察』(宮本正興・松田素二編), 人文書院, pp.134-149.
- Kaji, Shigeki. 2004. *A Runyankore Vocabulary*. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Kaji, Shigeki. 2007. *A Rutooro Vocabulary*. Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Kaji, Shigeki. 2015. *A Runyoro Vocabulary*. Shoukadoh, Kyoto.
- Kaji, Shigeki. 2023. *A Rukiga Vocabulary*. Shoukadoh for the Center for Language Studies, Kyoto Sangyo University.
- 柴谷方良・影山太郎・田守育啓. 1982. 『言語の構造—理論と分析— 意味・統語篇』, くろしお出版.